

# JUST DO IT.

令和5年3月10日(金)

亀岡市立東輝中学校生徒指導通信

文責：生徒指導主任 人見 麻友

## 決して忘れてはいけな**い**日。

2011年の3月11日、東日本大震災は12年前のことです。12年前のこの日、午後2時46分に、それは起こりました。三陸沖を震源とするマグニチュード9.0（最大震度7）の地震が発生し、岩手県、福島県を主として、大地が割れ、家屋が倒壊しました。その後、すぐに約15mとも言われる高さの津波によって、多くの命、美しい街並み、その地域で生活していた方たちの大切なもの全てを一瞬にして奪い去ったのです。マグニチュード9.0の地震は、日本の観測史上最大の規模の地震でした。

みんなが知っている震災と言えば、熊本地震や大阪北部地震かもしれません。特に大阪北部地震は2018年6月18日午前7時58分に起こり、登校中の小学生が亡くなるなど多くの被害があり、まだ記憶に新しいかもしれません。しかし、2011年3月11日に起きた東日本大震災では19747人の命が奪われてしまいました。そして、行方不明者は2556人。多くの人々の心に深い爪痕が消えないままです。

いま、穏やかに暮らしている私たちはこの3月11日という日を過去の出来事として、ただ悲しい事実があった日として理解するだけでいいのでしょうか。先生はそう思いません。先生は、この大震災を決して忘れてはいけな**い**日だと思っています。

あれから12年が経ち、景観はずいぶん復興してきていると思いますが、今でも家族を失った悲しい思いを抱えて生きている人がいます。失われた命は決して元には戻りません。今も、行方不明になった家族の手がかりを求め、海岸沿いを歩いている人がいます。娘さんの消息がわからず、石や流木を掘り起こして捜索されている人もいます。きっと、被災された方々の、心に突き刺さった苦しみの刃は、どれだけ時間が経とうと抜くことは決してできないのだと思います。

命を失った人の中には、君たちと同年代の人もたくさんいます。これからの人生に夢や希望を描いていた人、興味あることにチャレンジしようとしていた人、そう、未来を信じて自身の可能性に懸けようとしていた人たちが、この震災で命を落としたのです。生きてくても生きられなかった命があったのだということです。科学が発達した今でも、自然の巨大な力の前では人間は無力です。ただ傍観することしかできません……。

だからこそ、先生たちは、経験された貴重な震災の記憶を風化させてはいけな**い**と思っています。東日本大震災以降も全国各地で大きな地震が発生しています。日本は世界でも類を見ない地震大国です。私たちは自然が巻き起こす災害を防ぐことはできないかもしれない。しかし、「備え」があれば尊い命を守り、被害を最小限に食い止めることはできます。この震災の経験を教訓に、身近にできることに取り組みましょう。その備えがいざというときに、自分や大切な人の命を救うことにつながります。私たちにできることは「あの日を忘れない」こと。「今を一生懸命生きること」ではないでしょうか。それこそが、被害に遭われた方々に応える「唯一の行動でありメッセージ」だと思います。平凡な日々は当たり前ではなく、幸せなことだと感謝し、今を大切に生きていきましょう。